

水レター「びわ湖・よど川」

2012. 1 【vol. 20】

独立行政法人 水資源機構 関西支社 発行

あけましておめでとうございます。

平成24年第1号の水レター「びわ湖・よど川」を発行いたします。

本年も、より良い情報発信を行えるよう努めて参りますので、よろしくお願いいたします。

水レター「びわ湖・よど川」は、水資源機構全体の取り組みや関西支社管内における水資源機構に関する情報、琵琶湖・淀川水系の水源地域情報を関西管内の関係者（利水者、関係府県、関係市町村及びその他の関係機関）の皆様へ直接配信させていただきます。

目 次

1. 年頭あいさつ	1 p
2. 利水者アンケートのお願い	3 p
3. 技術研究発表会【報告】	3 p
4. 水道業務体験研修に参加して	4 p
5. 防災を考える日の取り組みについて	5 p
6. 【報告】琵琶湖施設見学会について	6 p
7. 【報告】関西管内の月間行事について	
・ 名張ひなち湖紅葉マラソン大会	7 p
・ 第2回大阪広域水道企業団・受水市長町駅伝大会	8 p
・ 土木カフェ	9 p
8. 今年の抱負を語る	10 p
9. 編集後記	12 p



新春を迎えて(H24水レター-新年号挨拶)

ハード・ソフト両面での危機管理 —過去の大災害の記憶を消すことなく—

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

利水ユーザーならびに関係機関の皆様には、旧年中は独立行政法人水資源機構に格別のご支援ご協力を賜り誠にありがとうございました。

水資源機構関西支社では、川上ダム、丹生ダムの建設事業と高山ダム、日吉ダム等の7ダムと琵琶湖開発施設等の合計10の施設の管理運営を通して、琵琶湖淀川流域での用水の安定的な供給と治水対策等に日々努めさせていただいております。

昨年は、3月11日に発生した東日本大震災は89年前の大正12年の関東大震災、17年前の平成7年の阪神淡路大震災以来の大災害となり、また7月には新潟県と福島県で、9月には台風12号に起因する豪雨災害が和歌山、奈良、三重の紀伊半島を襲いました。我が国はこれまでに幾度となく地震や津波、豪雨による災害を蒙ってきましたが、時の経過と共に次第にその記憶が薄れてきているように思います。

ところで、今年は辰年ですが、「十干(じっかん)」と「十二支(じゅうにし)」の組み合わせの十干は「壬(みずのえ)」、十二支は「辰(たつ)」であり、いわゆる干支(えと)は「みずのえ・たつ」の年です。

「壬(みずのえ)」は、力強い「海の水」を、「辰(たつ)」は、やはり強い土を意味するそうです。つまり、政治・経済・社会の変革を推し進めることを意味している一方で、壬辰は「水と土」を意味しますから、今年も大洪水、地震・津波等の自然災害が心配されます。今年も引き続き危機管理に万全を期していく所存であります。

東北地方の津波に関しては、今から115年前の明治29年6月に、今回とほぼ同じ犠牲者を出した大津波が三陸地方で発生しております。私の手元にありますやや古い理科年表(平成10年版)によると、「1896 6 15(明治29) M8 1/2 三陸沖『明治三陸地震津波』：震害はない。津波が北海道より牡鹿半島にいたる海岸に襲来し、死者は青森343、宮城3452、北海道6、岩手18158。家屋流失全半壊1万以上、船の被害約7千。波高は、吉浜24.4m 綾里38.2m 田老14.6mなど。・・・」とあります。また、吉村昭氏の「三陸海岸大津波」(文春文庫)に当時の模様が詳しく記載されております。

一方、琵琶湖淀川水系においては、明治7年から現在までの130年を超える観測史上、琵琶湖水位最大(鳥居川量水標で+3.76m)の大洪水が、奇しくも同じ明治29年9月に発生しています。この年は非常に多雨年で、9月に入ってもよく降り、9月7日に実に597mm、8日に162mm、9日に81mm、10日に107mmと、9月4日から12日までのわずか9日間で合計1008mmという強烈な豪雨が彦根にて観測され、滋賀県を中心とする大出水となったものです。

当時の状況を元彦根測候所長関和男氏は、その回顧録で『雨の振り方の強烈なことは、丁度ロープのような太さの雨で、その上雷雨を伴い実に凄惨な光景であった』と述べており、他の豪雨についても「滋賀県災害誌」(初版・昭和35年)に詳述されています。

さらに、明治22年8月にはやはり総雨量1000mmを超える豪雨で、十津川流域から和歌山県の各所で大規模な土砂崩壊が発生し、天然ダムが形成され、それが決壊し甚大な災害を生じた「十津川大洪水」が発生しております。また、安政の南海地震と大津波は今から157年前の1854年に起こっています。

天皇陛下は、昨年の誕生日のご感想文にて、施設面の充実とともに避難訓練や津波教育のソフト対応の実施、また災害時における人々の悲しみを記憶から消すことなく将来への備えを行うことの必要性に言及されております。また、次のようにも述べられております。

「7月に新潟県を襲った豪雨災害では、7年前に同地域が受けた豪雨災害時の雨量より更に多くの降雨量があったにもかかわらず、前回に比べ犠牲者の数が少なかったことです。これは前回の災害を教訓として治水や住民の避難に対し、さまざまな対策が講じられた成果であり、防災に力を注ぐことがいかに生命を守ることになるかを教えてくれます。」

防災業務に携わる私たちでさえもとすれば見落としがちな、昨年の新潟豪雨災害の特徴とこれ迄のハードとソフト両面での防災の成果に着目された天皇陛下のお言葉に頭が下がります。また、治水事業に携わる私たちに温かいエールのお言葉を頂いたように思います。

そこで今年は、昨年の3.11の東日本大震災や9月の紀伊半島水害を教訓として、地方に残る古い災害や気象記録をしっかりと後世に伝えるとともに、自らが災害に向き合う心を育むソフト対応も私たち水機構の重要な使命と考えます。

あわせて、長期的視点に立って従前実施してきたダムや河川整備による治水対策を速やかに推進することと共に適切なダム等の管理を行うこと、つまりハードとソフト両面での防災・減災対応が極めて重要と考えます。

流域の皆様とともに「多すぎる水」「少なすぎる水」への安全と安心を提供するという私たち水資源機構に課せられた使命に引き続き全力を尽くして参ります。

本年も、さらなるご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2012年 壬辰歳首

水資源機構 関西支社長
原 稔 明



利水者アンケートの依頼(お願い)



利水者アンケートの実施により、水資源機構に対する満足度調査を行うことで、現状における課題を把握し、業務内容の改善につなげたいと考えております。また、業務改善を行うことにより、利水者の皆さまの水資源に対する信頼性、サービスを向上させたいとも考えており、アンケートを実施させて頂くものです。

利水者アンケートは、独立行政法人へ組織移行した平成15年度から毎年度、利水者の皆様へご依頼しているところでございますが、これまでに8回のアンケートにご協力いただき、大変感謝申し上げます。

今年度におきましても、例年どおり、昨年12月末に利水者の皆様へアンケートのご依頼をしたところでございます。ご多忙のこととは存じますが、1月31日(火)までにご記入のうえ、ご提出いただけますようご協力をお願いいたします。

利水者サービス課

【報告】技術研究発表会

平成23年11月15日(火)および16日(水)の2日間にかけて、水資源機構本社(埼玉県さいたま市)において『平成23年度(第45回)水資源機構技術研究発表会』が開催されました。

大勢の聴講者が熱心に聞き入る中、関西管内から選出した6論文を含む、全国各地より推薦を受けた30論文が発表されました。

なお、5論文が理事長賞を受賞し、そのうち関西管内から発表した下記の2論文が理事長賞を受賞いたしました。



理事長賞

論文名(タイトル)	所属	発表者	共同研究者
青蓮寺ダム湖周辺道路での キロポスト標識設置と地域連携の取り組み	木津川ダム総合管理所	船津 浩司	北川 泰則
新たな曝気装置の開発 「水没式複合型曝気装置」の実現報告	日吉ダム管理所	佐藤 友宣	岩松 裕二 小阪 公則 西村 明

※詳しくは、水資源機構 HP の新着情報をご参照ください。



<http://www.water.go.jp/honsya/honsya/news/2011/11/news11112402.html>

平成23年度水道業務体験研修に参加して

木津川ダム総合管理所・高山ダム管理所 斎藤 竜典

平成23年11月14日から11月18日までの5日間にわたり、大阪広域水道企業団において水道業務体験研修に参加しました。本研修は、水道事業の実情を身をもって知ることによって、ユーザーである水道事業者の視点を理解し、将来の業務随行の礎とすることを目的としています。今年度は5名の職員が研修に参加し、研修内容及び研修を受講して感じたことについてご報告させていただきます。

村野浄水場は179万7千 m^3 /日の処理能力を有し日本最大の浄水規模であるとともに、オゾンの強力な酸化力を利用した高度浄水処理を実施している浄水場で研修を行いました。研修では、取水された原水が送水されるまでのろ過処理過程、高度浄水処理の役割、凝集剤の注入率を決めるための凝集試験及び水質測定等について講義いただきました。浄水場の施設を見学させていただき、太陽光発電や水位差発電、ガスコージェネレーションシステムによる発電、ろ過処理過程で発生した汚泥を園芸用土及び学校等の芝生用の土として有効利用するなど環境に配慮した取り組みを学ぶことができました。研修を通して、村野浄水場の抱える水質の問題や課題等を学び、いかに良質な水を全利用者へ供給すればよいのかを再認識することができました。また、高山ダムでは水質保全対策として浅層曝気設備を4基運用しており、現在、浅層曝気設備を新たに増設する工事を行っています。この工事は、水質保全対策の効果をより高めるとともに設備の稼働台数及び運転出力を制御し、コスト削減を図る目的で行っております。それらの対策を施し今後も水質に配慮したダム管理に努めて行きたいと思いました。

最後になりますが、大阪広域水道企業団の皆様におかれましては、大変お忙しい中施設の説明、講義をしていただきありがとうございました。



浄水管理センターの説明



水質計器の説明



水質測定の実演

防災を考える日の取り組みについて

(関西支社 設備課長 金藤康昭)

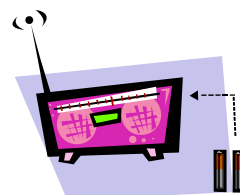
昨年3月11日に発生した東日本大震災での被害は、阪神淡路大震災を経験した私共にとっても衝撃的な出来事でした。この大震災を教訓として関西支社では、危機管理体制の強化を一人一人が考えるために「防災を考える日」を毎月11日に設定し、管内統一の取り組みとして実施してきました。

関西支社における取り組みは職員による体験談などの講義と討議形式で行われ、その内容は、①過去の大規模災害に学ぶこと、②情報発信、地域防災力、国の防災対応についての現状認識③今後起こりうる大規模災害について、と大きく3つに分類することができます。

特に東日本大震災に関する支援や被害状況のレポート、この地域に関連する過去及び将来の自然災害についての話は関心が高かったように思います。

以下に各月で発表された内容のタイトルを記します。

- 4月 ①東南海・南海地震について
②平成23年東北地方太平洋沖地震・災害復旧支援業務で感じたこと
③東北地方太平洋沖地震によるダムの被害状況
④列島に「傷痕」深く
- 5月 ①災害発生時における情報伝達・共有について
②震が浦用水への緊急支援の状況
③水資源開発施設の災害復旧事業に係る諸手続等について
④東日本大震災災害ボランティア報告
⑤明治29年(1896)を振り返る(津波と大出水)
- 6月 ①災害時における情報発信とマスコミ対応
②気象衛星画像で見る大雨を引き起こす顕著な現象
③東日本大震災の被災状況
④津波の調査研究及び理論・実験的研究、東日本大震災における国土地理院の対応
- 7月 ①自然災害に対する日本の現状
②関西支社管内の防災資材の備蓄状況について
- 8月 ①台風情報
②事前災害の苦い記憶
③①水に関する一口メモ(津波てんでんご他)
- 9月 ①伊勢湾台風を振り返って
②命あることに感謝し、お互いに親切に
- 10月 ①災害から身を守る防災情報
②津波痕跡調査(南海大地震津波)
- 11月 ①BCPとリスクマネジメント
- 12月 ①危機管理のノウハウ
②関西支社BCPの策定にあたって
③百年では短い、七世代過去を振り返る必要性



この9ヶ月間で分かったことは、以下の3点に集約することができると思います。

- ①災害列島に住む私共にとって自然災害は避けて通ることができないこと
- ②過去の歴史、教訓に学ぶことがこれからの災害対応にとって非常に重要であること
- ③災害発生を前提とした、事前・事後の計画及び実施が被害の大小に決定づけること

関西支社では、今後、業務継続計画を含めた防災体制の強化に努める予定です。

また、各月で報告した内容の内、いくつかのものについては、出前講座として実施させて戴きますので、お問い合わせください。

報**告**

琵琶湖施設見学会

平成23年11月10日（木）および11日（金）、琵琶湖開発事業で建設された施設について、利水者を対象とした施設見学会を実施しました。

施設見学会は、総勢25名の関係者の方々に参加いただきました。見学会に参加された方々からは、「機構はダム管理の印象が強いが、琵琶湖周辺の水門等もしていることがわかり、有意義だった。」という意見や「広範囲にわたり施設管理を行っている苦労談を聞きたかった。」や「防災訓練、日常管理の様子も見学してみたい。」など要望もいただき、琵琶湖開発施設の管理をご理解いただけたと共に、琵琶湖開発施設の管理状況も紹介していかねばならないと感じております。

また、施設見学会の最後に行った意見交換では、「東日本大震災を契機に、施設の耐震対策について検討を行っているのか。」や「普段から頻繁に、ダム管理所と情報交換しているので、急な用件を尋ねる時など、問い合わせがしやすい。」など、利水者の皆様が普段感じておられる質問や意見を伺うことが出来ました。

今回の施設見学会では、大変多くの方々に参加いただき、お礼申し上げます。また、今後においても、施設見学会を行う重要性を再認識いたしました。

最後に、琵琶湖開発施設は平成4年に管理を開始してから、昨年で20年という節目を迎えることも出来ました。昨年の11月5日（土）には、大津市生涯学習センターにおいて、シンポジウム「琵琶湖開発事業の過去・現在・未来 ―管理20年を迎えて―」が開催され、大変多くの方々にご来場いただきましたことを感謝し、御礼申し上げます。

利水者サービス課



【バイパス水路の操作説明】



【津田江排水機場内での操作の概要説明】



【新浜ビオトープにおいて環境保全の取組を説明】

「2011名張ひなち湖紅葉マラソン大会」

【木津川ダム総合管理所 比奈知ダム管理所】



比奈知ダム貯水池の「ひなち湖」周辺をマラソンコースとして毎年行われる名張市主催の恒例「2011名張ひなち湖紅葉マラソン大会」が平成23年11月20日（日）に行われました。大会前日から降り続いた季節外れの大雨も心配しましたが、大会当日の朝には何とか雨も上がり、絶好のマラソン日和となりました。

大会には、三重県内外から600名を越える多くのランナーがエントリーされ、日頃から鍛えた健脚を試されていました。また、ひなち湖周辺を走るマラソンコースということもあり、丁度この時期、木々の紅葉がひなち湖に映し出される素晴らしい景色の中を、各ランナーは楽しみながら走り抜けていました。

我が水資源機構の木津川ダム総合管理所や関西管内の事務所から総勢16名の参加があり、職員同士でタイムを競ったり、レース終了後にはお互いの健闘を讃え合うなど、職員同士の親睦を図ることが出来て、とても有意義な大会でした。

手作りレース的なアットホームな雰囲気のある大会なことから、レース終了後には、地元の方々の提供による暖かい豚汁のサービスや、名張市と縁の深い江戸川乱歩「怪人二十面相」の衣装を着た司会者による伊賀米などが当たる「お楽しみ抽選会」が行われるなど、みなさんとても楽しまれました。

参加者からは、「小さい子も含まれた家族連れが多く、アットホームな感じが出ていてほっと出来るマラソン大会」との声がありました。

【ダム天端を走るランナー】



【スタートを切ろうとするランナー】

第2回大阪広域水道企業団 ・ 受水市町村駅伝大会

大阪広域水道企業団は、平成23年12月3日（土）に企業団職員と構成市町村の水道関係者との相互の親睦と健康増進を図るため、堺市の大泉緑地において第2回の駅伝大会を開催いたしました。大会には競技の部27チーム、親睦の部14チーム合わせて約200名の選手と選手の家族や職場の方々が応援に訪れました。

本駅伝大会は、大阪広域水道企業団の発足を記念し、昨年より始まった大会で、大会の運営には企業団の有志の方々により、業務外で準備から設営、協議の運営が行われ、水資源機構関西支社（関西支社、中津川管理室、一庫ダム管理所）は大会運営に微力ながら協力させていただき、競技の部に参加するとともに、水源施設についてPRさせていただきました。

大会当日のスタート直前より、小雨が降る肌寒い、あいにくの天候のなか、竹山企業長による号砲を合図にスタートが切られ、競技の部3km×5周、親睦の部3km×3周の熱戦が繰り広げられました。競技の部では、大熱戦の結果、水道企業団の庭窪水走団Aチームが優勝し、親睦の部では竹山企業長自ら力走され、各チームでは趣向をこらした襷や衣装などで大会を盛り上げていただきました。

大会運営をボランティアであられた企業団の職員の皆様、お疲れ様でした。来年は良い天気で、多くの皆様が参加されることをお祈りしています。



【駅伝大会開会挨拶】



【一斉にスタートとするランナー】

どぼくカフェ with Dam★Night in Kansai — 土木学会関西支部関連イベント参加 —

「どぼくカフェ」は、『フォーラム・シビル・コスモス (Forum Civil Cosmos : FCC)』が主催して行われる土木に関する様々な話題について、講師による講演と参加者相互で対話型のイベントですが、水レター vol16でも「初めてのダムマニア」としてその模様をお伝えしました。今回は、ダムシリーズ第二弾として平成23年12月8日京都大学において開催されたイベントの模様をお伝えします。

今回のメインコメンテーターはダムマニアの間では「雀の社会科見学帖」でおなじみ、ダム愛好家の夜雀さん（関西在住）です。夜雀さんのダムに関する基礎的な講演に対して、京都大学防災研究所の角教授、当機構の神矢川上ダム建設所長（前木津川ダム総合管理所長）が専門的な立場で解説し進行していきます。「私の気になるダム、知ってほしいダム」では吉本興業ダム部のバッファロー吾郎竹若氏が加わり、それぞれから思い入れのあるダムの披露があり、珍しいダムの紹介、そのダムにまつわるディープな話、海外のダムの事情など、新鮮な内容に富むもので、新たなダムの魅力を発掘できたのではないのでしょうか。私どもにとっても新鮮な内容を拝聴でき、たいへん勉強になった次第です。参加者は約100名でその約半数は学生が占めていましたが、進行も会場との一体感があり、皆熱心に聞き入り、最後には質問が相次ぐなど、予定していた時間が超過するほどでした。

「土木」について、その魅力を若い人へ底辺を広げ、伝承していくことが、今後とも重要なことだと感じています。（関西支社 谷、今井）



吉本ダム部バッファロー吾郎竹若氏登場
（前列左から京大高橋先生、竹若氏、夜雀さん、角先生、神矢所長）



熱心に聞き入る聴衆

「未来へ社会への発信」

大阪電気通信大学・創立記念50周年記念公開講座 — 第3回 水資源・環境における未来技術

大阪電気通信大学（大阪府寝屋川市）では、大学創立50周年を記念して「未来社会への発信」として、エレクトロニクス、放射能などの先端技術などの5つのテーマについて公開講座が行われました。平成23年11月26日（土）「第3回水資源・環境における未来技術」が開催され、関西支社 原支社長が「水を取りまく技術と文化—安全・安心・やすらぎを求めて—」と題し、ダム技術と琵琶湖・淀川に関する文化について講演いたしました。



今年の抱負を語る！



新年を迎えたこともあり、気持ちも新たに、今年も一年頑張ろう！
…ということで、ありきたりではありますが、

今年初の水レターでは、水資源機構関西管内に勤務する年男^{としおとこ}たちに“今年の抱負”
を語ってもらいました。

■松高 遵（川上ダム建設所 第二用地課）

私事ですがH23年に結婚し、子供も生まれました。
これからは一家の大黒柱として、より一層仕事に精進したいと思います。

【プロフィール】

遠目で見ると石川遼をダメにした感じです☆



■船津 浩司（木津川ダム総合管理所 青蓮寺ダム管理所）

日々をだらだらと過ごし続け、気づけばもう新年を迎えていました。
今年はもう少しプライベートを充実させるために、没頭できる趣味を
探せればと思います。

年明けのマラソンと駅伝がんばります！

【プロフィール】

群馬県出身。一人身の寂しさを抱えたまま日々を過ごしています。

よく”小島よしお”に似ていると言われますので見かけたら一声かけてください！



■高橋 宏行（関西支社 利水者サービス課）

非常事態に備え、昨年1年間で蓄えた体の栄養（約10kg）を、麦酒の量を減らさずカット！
飲んだ後、飲んだ次の日の拉麺をやめれば、すぐに達成するかもしれませんが、止められません
ね、きっと。

それも含めて頑張ります！

加えて、いつの間にか、某利水者サービス課長のマラソンタイムを抜いて
みたりして。。。

【プロフィール】

群馬出身。かわいい奥さんと可愛い天使が2人。4人家族です。

最近、メガネを購入。別人になった気持ちで気分転換を楽しんでいます。



■佐々木 敏生（木津川ダム総合管理所 室生ダム管理所 所長代理）

昨年12月に吉野川局から参りました。

1年8ヶ月ぶりに関西に戻って参りましたが、やはり四国の冬の寒さとは違って、寒いです。
昨年は体力の衰えを感じながら、テニス、ハーフマラソン等に力を入れ、楽しく四国の地を満
喫しておりました。

今年も楽しく過ごせたらと思い、初のフルマラソンを計画しておりますが、
年末に脹ら脛を負傷し、走ることが出来ない状況で、不安のまま年を越して
しまいました。

それでも「何とかなるさ」という気持ちで、毎日楽しく過ごせたらと思って
おります。本年も何卒宜しくお願い致します。

【プロフィール】

熊本県出身。現在京都府在住で名張にて単身生活しております。



■山田 雅勝（琵琶湖開発総合管理所 湖北管理所 管理所長）

昨年5月は琵琶湖の内水排除操作を2回実施しました。

一方、9月の台風12号、15号は琵琶湖周辺の水害被害は軽微なものでした。

例年、滋賀県の水害被害額は全国でも下から数えた方が早いと聞いています。このように幸運を授かっておりますが、これが続きますよう、琵琶湖内水排除操作等のための維持管理に努めていく所存です。

また、大地震が湖北に災いをもたらさないようピワコオオナマズ様に祈念しております。本年もよろしくお願いいたします。

【プロフィール】

今年も湖北 伊吹山の雪景色を見ました。今年も家族とスキーが楽しめそうです。



■新井 誠輔（日吉ダム管理所 所長代理）

昨年12月に日吉ダムに異動となり、ようやく1ヶ月が経過したところです。

日吉ダムにきて、毎日の雪の多さに驚いているところです。

現在までに関東、関西、四国、九州の各事業所に勤務した経験はありますが、ダム管理としては10数年ぶりとなります。

日吉ダムでは、これまで同様にダムの適切な管理に努めていきますので、以後、よろしくお願いいたします。



■原 稔明（関西支社長）

人生2度目の壬辰、6度目の辰年を迎えました。一巡して再び0才からの体力増、頭脳切り替え（古い価値観を断捨離）て人生2巡目を大いに愉しみながら、これ迄以上に柔らかい「心・技・体」を目指したいと思っております。平成の大横綱「白鵬」は、「心・技・体、やっぱり心が一番上です。勝つためには心が8割、技術が2割・・・」と言っています。

ところで、「ありがとう」「感謝します」は、ツキを呼ぶ魔法の言葉だそうです。

水技術者は生涯現役、感動・感激・感謝の心をより一層磨いて、私の拙い技術経験を伝承して少しでも恩返しが出来ればと思います。

“技術は人なり熱意なり” “土木屋は、森羅万象 微分積分” “心に響く水技術者 感動力 感謝力”

【プロフィール】

- ・昭和27年5月13日生まれ、和歌山県白浜町出身（日置川・富田川流域）
- ・昭和53年4月水公団に入社、琵琶湖開発建設部を皮切りに現在の関西支社は14番目の勤務地。現場経験として淀川水系のみで、琵琶湖（琵琶湖・丹生ダム）、桂川（日吉ダム）、木津川（布目ダム）の3大支川を制覇。
- ・趣味は、以前は野球、テニス、ゴルフ、鮎釣り、今は鮎釣りと俳句のまねごとと物書き？パチンコ止め、〇〇止め、たばこ止め、麻雀止め、今はゴルフ年1回程度と飲酒のみ。





編集後記

あけましておめでとうございます。

旧年中は「水レター」をご愛読いただき、誠にありがとうございました。

昨年は、東日本大震災や台風12号により、大きな災害に見舞われ、今もなお、日本国内の各地には、深い爪痕が残り、一日も早い復興を祈るばかりです。

我が国は、地形的、地質的にも災害に対して脆弱であり、気候変動により豪雨の頻度や渇水の影響を受ける地域の増加により、今までにない深刻な事態の発生が懸念されています。水資源機構では、今後とも洪水や渇水に対して的確な施設の管理に努めてまいります。

また「水レター」では、水資源機構からの情報配信は元より、利水者や水源地域の情報についても、素早い情報提供に努めてまいります。今年1年、引き続き、ご愛読いただけますようお願いいたします。

本年も皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

平成24年1月



水レター編集委員長
編集委員

今井	敬三
浅沼	知紀
和田	美会
藤本	智宏
生田	正道
山口	清隆
長	博毅
遠山	裕平
石井	小百合

[水レター「びわ湖・よど川」に対して、ご要望・ご意見等がございましたら、
下記アドレスまでご連絡ください。\(耳寄りな情報もお待ちしております。\)](#)



mailto: w-kansai@msg.biglobe.ne.jp